

新鮮！焼きたて！ 第5回JFかき祭り

2月22日(日)、宮城県漁業協同組合志津川支所が主催する「第5回JF志津川かき祭り」が志津川魚市場で開催され、約2万2千人のお客さんと賑わいました。

この日は、寒いながらも好天に恵まれ、午前9時の開場時から大勢のお客さんが入りました。特に、かき汁や炭火焼きの殻付きかきの無料試食コーナーは、長蛇の列ができるほどの盛況ぶりです。試食を振る舞う職人さんたちも大忙しでした。また、会場には炭火焼きのパーベキューコーナーも設置され、新鮮で焼きたてのかきやホタテをおいしそうに食べていました。



かきフライをばくっ！



フロの歌声を体験

2月25日(水)、入谷中学校体育館で文化庁の事業の一環として行われている「本物の舞台芸術体験事業」として、日本合唱協会の皆さんによる合唱公演が行われました。

公演では、「ハレルヤ」などの世界の名曲や「大きな古時計」などの誰もが一度は聞いたことのある曲が披露され、まるでエコーがかかっているかのような女性の歌声と力強い男性の歌声のハーモニーが体育館に響き渡りました。

また、集まった43名の生徒と約30名の一般客が、合唱団の皆さんと一緒に校歌を斉唱する場面もあり、3月の閉校を目前に控えた皆さんにとって、思い出に残る1日となったようです。

野菜ソムリエのヘルシー野菜術

2月27日(金)、宮城県で初めてベジタブル&フルーツマイスターに認定された齊藤緑さんによる講演会が志津川保健センターで開催されました。

ベジタブル&フルーツマイスターとは、野菜ソムリエとも呼ばれ、生活の中で野菜と果物の魅力を様々な形でわかりやすく社会に伝えるとして、日本ベジタブル&フルーツマイスター協会の認定をもらっている方のことです。

今回の講演会では「野菜ソムリエのヘルシー野菜術～知って食べると、ココロもカラダももっと喜ぶ～」と題し、健康づくりのために、野菜を多くとることや野菜をおいしく食べるコツなどが話され、参加した皆さんは熱心に話を聞いていました。



丹念に作られた
繭細工の鉢植え



松笠屋敷で行われた「いろいろコンサート」の様子

色鮮やかな繭細工の加工品

3月7日(土)～8日(日)の2日間、入谷の「ひころの里」を会場に、「シルクフラワーフェスタ」が開催されました。

シルクフラワーフェスタは、仙北地方蚕糸加工者連絡協議会が主催するもので、地元や県内各地の養蚕関係者から出品された、ツツジの鉢植えやコサージュなどの繭細工の加工品1,033点が展示され、大勢のお客さんと賑わいました。

また、松笠屋敷が無料開放され、「劇団ぐるうぶ観覧車」の皆さんによる「いろいろコンサート」が開催されたほか、入谷婦人会の皆さんによる地元産の手打ちそばが振る舞われるなど、会場を訪れたお客さんは、山里の心地よい空気を体いっぱい浴びて、一早い春の訪れを楽しみました。

2つのフットサル大会

2月15日(日)と2月22日(日)、5人制の室内サッカー競技であるフットサル大会が志津川公民館を会場に開催されました。

2月15日の大会は、男女混合のフットサル大会で、必ず女性が1名以上出場していることが条件。男性のパワーに、思わず「尻もち」をついてしまう女性もいましたが、見事シュートを決めてガッツポーズをみせるシーンもあり、迫力ある試合展開となりました。

2月22日の大会は、町内の小学4年生～6年生で編成されるチームが対象で、子どもたちは日ごろの練習の成果を発揮しようと、一生懸命にボールを追いかけていました。



女性も華麗なテクニックを披露しました



子どもたちは元気いっぱいコートを走りまわりました

それぞれの大会の結果は次のとおりです。

- 【フットサル大会(男女混合)】
- 優勝 D・T/FUSION
- 準優勝 FC.PAPA+2
- 第3位 KMT
- 【フットサル大会(U-12)】
- 優勝 フォルツァ志津川小
- 準優勝 名足小ブラックタイガース
- 第3位 伊里前・清水レジェンド
伊里前小ユナイテッド

自分たちの地域は自分たちで守ります



2月14日(土)、県の共催による「地域防災リーダー研修会」が役場大会議室で開催され、自主防災組織、各行政区の代表者、事業所関係者など62名が参加しました。

町では、平成22年度までに町内の全ての行政区に自主防災組織を設置するべく取り組んでいます。

午前中は、地震が発生するしくみや宮城県沖地震が発生した際の当町で想定される被害などについての講義が行われ、地域の皆さんが協力してお互いの命を守ることの必要性和重要性を確認しました。午後からは、参加者を7つの班に分けてグループワークを行い、「被災したときに、地域防災リーダーとしてどのような行動をとるべきか。」などということについて、意見を述べ合いました。

今回受講した62名の皆さんは、地域及び事業所における震災対策に関する活動の中心的な役割を担う「宮城県防災指導員」として認定される予定です。

子どもたちにエコの体感を

2月18日(水)、株式会社宮浄取締役会長で町の夢大使としても活躍している及川龍治さんが町長室を訪れ、光と熱を電気に変えるエコ教材10台を町に寄贈しました。

今回寄贈された教材は「ソーラーツインザラス」という製品で、熱エネルギーと光エネルギーを利用して発電するものです。これまでも、光(太陽)エネルギーを利用した発電システムはあったものの、その際発生する熱エネルギーは邪魔なものとして扱われてきましたが、今回の製品は、効率良く両方とも利用するという画期的なもので、宇宙航空研究開発機構の指導・協力のもと作られました。

及川龍治さんは、「子どもたちに、光と熱を使ったエコを体感しながら勉強してほしい。」と語り、教材は、町内の小・中・高校に配置されることになりました。

